

## 「インテリアプランニングのキーワードに関する調査・研究」報告書（概要）

### 1. 調査・研究の目的

インテリアプランナーの実務において用語の正確な認識と伝達は欠かせない。また、インテリアプランナー試験の受験者にとって用語の性格な意味・内容の把握は試験の解答・合格に欠かせない。現在使われているインテリア用語を調査・研究し、インテリアプランニングのキーワードとしてふさわしいものを選定し、その意味・内容を規定し解説することにより、「ことば」の面からインテリアの現在状況をとらえ、コミュニケーションの基礎的なツールを提供する。

### 2. 調査・研究の進め方

各種の事典・辞典及び IP 試験科目の分類を調査し、独自の分類（キーワードブックの目次でもある）とその中に含まれる項目・細目を研究し、8 の分野分類にまとめることとした。続いて、分野ごとに担当を分けキーワードの調査・抽出を行った。各項目の担当者が「平成 22 年度インテリア試験対策 学科テキスト」をベースに、インテリア関連事典・辞典・教科書等をつぶさに調査し、100 ワードを目安に抽出し、会議に持ち寄り検討した。キーワードとして相応しいものの選別、分野間で重なり調整、キーワードの解説を、会議に持ち寄り検討を加え精査した。全ての原稿が揃った後、全体編集を行い、これを当協会理事に頒布し自分の探したい語があるか、その解説は適切か、全体の編集方針は適切か、などについてアンケート調査を実施した。主な意見としては、章立ての構成のため語句がどの章にあるかを探しにくい、求める語句で収録されていないものがある、解説はおおむね適切、などであり、その内容を会議で検討、修正を加え「インテリアプランニング・キーワードブック」として完成させたものである。

会議の概要は以下の通りである。

2010 年 9 月 14 日準備会議。「調査・研究助成」の採用を受けて、内容と日程について会議。

10 月 12 日第 1 回会議。分野分類、キーワード数、配列、担当の検討。

11 月 16 日第 2 回会議。分野分類と担当の検討・張付け。キーワード抽出と調整。

12 月 14 日第 3 回会議。分野分類確定。担当間キーワード調整。キーワード解説表記検討。

2011 年 1 月 11 日第 4 回会議。キーワードブック目次・索引等検討。担当間キーワード調整

1 月 25 日第 5 回会議。担当間キーワード調整・チェック。凡例・表記法検討・確定。

2 月 08 日第 6 回会議。担当間キーワード調整・チェック。凡例・表記法検討。中扉案。

2 月 22 日第 7 回会議。報告書検討。次年度申請検討。解説原稿重複等調整。今後の日程。

3 月 08 日第 8 回会議。報告書調整。まえがき等確認。アンケートの件。解説内容確認。等。

3 月 14 日第 9 回会議。報告書試供本の確認。アンケート結果。まえがき調整。製本検討。

### 3. 報告書：「インテリアプランニング・キーワードブック」の概要

キーワード総数 2028 語。8 の分野分類の内容及び各章のキーワード数（（ ）内の数字。各章間の重複を含む。）は下記のとおりである。

- |               |       |                        |
|---------------|-------|------------------------|
| 1. インテリア歴史    | (256) | 歴史・様式・意匠               |
| 2. インテリア計画    | (400) | 計画基礎・人間工学・各種建築インテリア計画  |
| 3. インテリア環境・設備 | (250) | 室内環境・設備計画              |
| 4. インテリア装備    | (382) | 構法・エレメント・材料            |
| 5. インテリア設計・監理 | (206) | 設計・製図・表現・工事監理          |
| 6. インテリア施工    | (190) | 工事・施工管理                |
| 7. 建築・インテリア法規 | (246) | 建築基準法、消防法、防災・安全計画、関連法規 |
| 8. 建築構造・工法    | (137) | 構造計画・工法・構造力学           |

分野分類の考え方は、次のとおりである。

1はインテリアプランナーとしての基本的教養として最小限必要と思われる語をまとめた。2～6はインテリアプランニングの実務的な流れに沿った構成とし、最近の技術成果も踏まえて必要な語を抽出した。特に、3.インテリア環境設備はインテリアプランニングにとって合理的で快適な室内環境を作る出す責任のある分野であり、実務面での必要性も高いことから独立した分野とした。6は大規模商業施設や高層集合住宅等において施工管理の実務をインテリアプランナーが求められている分野であり、独立した分野とした。7はインテリアデザイナー、インテリアコーディネーター等より建築よりの職種・職能として遵法の責任を問われる重要な分野である。8は、インテリアプランナーは建築物の内側を扱うものであるが、建築物・躯体を理解してこそインテリアプランナーの立場があると云える分野であり独立した分野とした。

キーワード数は、当初目安とした700～800語を大幅にオーバーし、最終的に2028語となった。キーワードとなる用語は、時代の要請により規定される側面もあり、現代のインテリア実務にとって、より重要性・有用性が高い用語の選定が必要である。選定に当たって、次の四つを重点項目とした。

- ① 公益性・公共性に関わる用語（法律、構造、仕事のプロセスと管理に関するもの）の補強。
- ② 地球環境及び省エネルギー、生活環境への配慮に関する事項・用語の増強。
- ③ 基礎的用语の充実。
- ④最近の社会的課題（環境、防犯、防災、新技術、新制度等）に関する事項・用語の反映。

#### 4. 「インテリアプランニング・キーワードブック」の構成

構成・編集の特色としては次の6点を挙げる事が出来る。

- ① 領域・分野別の構成とし、広範な対象職域を、より体系的に理解・学習しやすくした。
- ② インテリアプランナーの教養と実務そしてインテリアプランナー試験対応を念頭において、キーワードの分類・配列を、分野分類毎(8分野＝8章)にまとめ、各章50音順配列とした。
- ③ 専門職能分野での歴史のおよび現代的、言い回しや漢字・英字も注意深く扱った。漢字には読み仮名を入れ、英字イニシャルにはフルスペルを入れた。
- ④ 章立て形式にしたことで、巻頭に全ワードの50音順総索引を設けた。これにより、現場や試験科目で、〇〇に関するといった場合に、当確分野・科目の章からと索引からの二重の検索を可能にした。
- ⑤ 索引は、50音順、人名、欧文イニシャルの3種とした。
- ⑥ 参考文献はブック末頁に、文献名の50音順に記載した。

#### 5. 調査研究の成果の活用と効果

本調査・研究の成果は、「インテリアプランニング・キーワードブック」として、希望者に実費にて頒布する。また、インテリアプランナー試験対策講座等での活用を図る。

本研究の効果としては、インテリアプランナーにとっては、キーワードの整理により、広範囲で断片化しがちな用語の意味・知識の共有化・体系化が図れることがある。また、有資格者グループが専門性の高い「キーワードブック」を発行し、技術者の啓蒙を図る活動をしていくことが、インテリアプランナーの社会的信頼を高める一助となり、インテリアプランナー資格制度の発展に寄与するものと考えている。

#### 6. 今後の調査・研究への展望と課題

9月から3月までの7ヶ月の短期間の調査・研究であった。分野の調査・研究では、8分野(8章)を設定し、インテリアプランニングの実務分野を従来以上に明確にした。分野内のキーワードの調査・研究については、時間的・紙面的制約の中で厳選されたものであった。この為、準キーワードが扱えず次への課題となった。又、解説については、グラフや図表が時間的制約の中で書き込まず次への課題となった。今後この調査・研究を継続しこれらの点を解決して充実し、市販出来るところまで完成度を高めたいと考えている。また、次の展開として「インテリアプランニングブック」編纂のための調査・研究を検討している。

#### 7. 共同調査・研究者、執筆者

石橋 実(京都光華女子大学教授)・片山勢津子(京都女子大学准教授)・加藤精一(代表者・株式会社ジャス代表・一般社団法人関西インテリアプランナー協会会長)・来海素存(神戸女子大学講師)・郷力憲治(大阪樟蔭女子大学教授)・小宮容一(主幹・芦屋大学教授)・中山邦子(武庫川女子学園大学講師)・横田宗久(梓設計株式会社大阪支店支社長)

(以上8名・50音順)